

# 山口県萩市大井七重（オーイナナエ）方言に おける身体感覚を表すオノマトペ

岡野信子

はじめに

1. 調査対象地；萩市大井七重（オーイナナエ）は市内北東部の山村で、上（ウミ）11戸、下（シタ）7戸の集落である。話者の家は下にある。ここは昭和30年に萩市に編入されるまで阿武郡大井村（オーイナナエ）であった。大井村は川をはさんで萩藩領と徳山藩領に分かれており、七重は徳山藩領であった。
2. 調査年月日；平成4年1月5日
3. 話者；草野幾一（クサノイッキ）明治35年4月13日生。同席者 草野隆司（昭和31年生。幾一氏の孫、市役所勤務）、萩市郷土博物館学芸員 清水満幸（昭和34年生）。
4. 調査者・調査場所；岡野信子；話者のお宅
5. 調査方法；『方言資料叢刊』第2巻調査票に基づく面接質問調査

## I 全身の感覚

### 1-1 快不快

さっぱり サッパリ・スッキリ＜こうも言う＞  
○汗をかいたが、風呂に入って～した。

### 1-2 寒さ

がたがた ガタガタ＜こちらがおも＞・＜ガクガクとも言う＞  
○ガタガタ フルイガ ツイタ。

ぶるぶる ブルブル・ブツブツ  
○ブツブツ フルーチョル。

ぞくぞく ゾクゾク・ゾーット  
○セスジガ ゾーット スル。カゼ ヒータヨーナゲナ。

すうすう スーサー  
○セナガ スーサー スル。

### 1-3 熱さ

ぼかぼか ボカボカ＜日だまりに居る時のぬくもりを言う＞・ポッカポッカ

ぼちぼち ポッポ＜ほてりを言う＞  
○ホーガ ポッポ シテ キタ。

かっか カッカ＜ほてりの激しい状態。怒りで興奮している時にも言う＞

わくわく ワクワク＜熱っぽくて、頭痛もする時の感覚＞  
○アタマガ ワクワク スル。カゼジャ ナー カ。

## II 皮膚の感覚

ひりひり ヒリヒリ＜若い者は言うかもしれない＞

やびやび ヤビヤビ<焼けつく感じ。福岡県域ではヤリヤリと言う>

○(海水浴で日焼けして)セナガ ヤビヤビ シマス。

べたべた ベタベタ・ベタベタ<～ニに続く時のアクセントはベタベタニとなる>  
ビチャビチャ

○シオデ(シタで) ベタベタニ ナック デョー。

ねちゃねちゃ ネチャネチャ<汗や汐で>・ネトネト

むずむず ウズウズ<背中に何やら入っている時の感覚>

もぞもぞ モドモド

じがじが ジガジガ<髪の毛や毛糸などが入った時の感覚>・ジガジガジガジガ

○ドネーヤラ ハシカイー(むずがゆい)。ジガジガ スル。

ちかちか チカチカ<とがった物が背中に入った時、とげが指にささった時の感じ>

かさかさ カサカサ<肌が乾燥しすぎた時の感覚>

がさがさ ガサガサ<荒れ方がカサカサよりひどい>

すべすべ スベスベ<手でふれて>

つるつる ツルツル<手でふれて>・ツルッツル

つやつや ツヤツヤ<見た感じ。つやがある>

ずきずき ズキズキ・ズキンズキン・ズッキンズッキン<切り傷・打ち傷の痛み>

じんじん ジンジン<打ち身・やけどの痛み>

ひりひり ヒリヒリ<擦り傷・やけどの痛み>

きりきり キリキリ<切り傷の痛み>

ちくちく チクチク・チクチクチクチク<針で刺す痛み>

やびやび ヤビヤビ<やけどの痛みにも日焼けの痛みにも言う>

ずきんずきん ズキンズキン

○ユキヤケガ(しもやけが) デケテ ホーチャク セタ。(化膿し悪化した)。ズキンズキン スル。イジリガイー(むずがゆい)。

ぼとぼと 該当語なし。

### Ⅲ 頭部の感覚

#### 3-1 頭

がながん ガンガン<割れるような痛み>

くらくら グラグラ・フラフラ<めまいを伴う感じ>

ずきずき ズキズキ・ズキンズキン<こめかみのあたりに脈が打っている感じ>

わくわく ワクワク<熱があつて頭痛がする時の感覚>

○アタマガ ワクワク スル。<「体が ワクワク スル」とも言う>

#### 3-2 顔面

かっか カッカ<使用頻度は低い>

ぼっと ポーットくほてる感じ。アコー ナルと言うことも多い>

○ハズカ シューテ カオガ ポッポ ショル。

ぼっぱ ポッポ

○ハズカ シューテ カオガ ポッポ ショル。

### 3-3 目

ちかちか チカチカ<テレビを見すぎた時などの目の痛み。またまつげが入っている時の痛み>

ちらちら チラチラ<目が疲れていて、物がはっきりとは見えない状態・感覚>

○メガ ダッタデ デョー。チラチラ シテ ミエ<sup>ン</sup>ヤ。

うろうろ ウロウロ<目が疲れていて物が見えにくい状態・感覚>

しょぼしょぼ ショボショボ<煙い時、目が疲れている感じ。「目をショ<sup>ボ</sup>ショボサセテ」のように外見も言う>

ごろごろ コロコロ<異物が目に入った時の感覚>・ゴ<sup>ロ</sup>ゴ<sup>ロ</sup>コロコロより強い

### 3-4 耳

きーン キーン・キ<sup>ン</sup>キン<金属的な騒音が耳に響いた時の感覚>

がんがん ガンガン<非常に大きな音が耳元で響く時の感覚>

じーン ツーント<トンネルの中で耳のつまった時の感覚>

じくじく ジクジク・ジュ<sup>ク</sup>ジュク<耳だれで耳の中がしめっている状態・感覚>

### 3-5 鼻

むずむず ムズムズ・モ<sup>ゾ</sup>モゾ<くしゃみが出そうな時の感覚>

ぐじゅぐじゅ グスグス<鼻づまりの時の状態・感覚。「グスグス イワセテ」と言うから擬声語であろう。>

ズルズル ズルズル<鼻汁をズルズル イワセル>・ジュ<sup>ル</sup>ジュル<幼児語らしい>

つーんと ツーント<わさびを入れすぎた時の刺戟感。>・ツ<sup>ン</sup>ツン<ツーントより程度が甚しい>

### 3-6 口

(口全体)

\* 該当語なし<スイーとしか言わないようである。>

\* ネバネバ・ネチャネチャ・ネッチョネッチョ・ベタベタ

○ア<sup>マ</sup>タ<sup>リ</sup>ー ノー。ク<sup>チ</sup>ハ<sup>タ</sup>ガ(口の端が) ネチャネチャ スル。

(歯)

がちがち ガチガチ・ガタガタ<寒くて歯の根の合わない状態・「ガチガチ 鳴リョル」「ガタガタ ショル」と言う>

かちかち カチカチ<言わないようである>

がくがく ガクガク<歯がゆるんでいる時の状態>

ずきずき ズキズキ・ズキンズキン・ズッキンズッキン・ズクズク<持続する歯痛>

ちくちく チクチク<ズキズキよりは軽い歯痛を言う>  
きりきり キリキリ<きりをもみこむような鋭い痛み>  
きゅっと キュット・キョット<瞬間的な鋭い痛み>

(舌)

ひりひり ヒリヒリ<カレーを食べた時の感覚>  
びりびり ビリビリ<わさびやこしょうの辛さ。ヒリヒリよりさらに刺激的である>

3-7 喉

からから カラカラ<乾燥しきっている時の感覚・状態>  
○アドガ カラカラニ カワイト。  
がらがら ガラガラ<たとえば脱穀の後などのイガラッポサを言う擬態語>  
○アドガ ガラガラ スル。  
いがいが イガイガ<あくの脱けていない筍のエグイ感じ>・イライラ<渋柿の渋が口の中に残った時の感触>  
いがいが イガイガ・イライラ<ほこりを吸った時の感じ>・イラツク<動詞>  
じかじか ジカジカ<渋柿の渋の口の中に残った感触>  
ぜえぜえ ゼーゼー<痰がからんだ時の状況を言う擬音語>  
ひゅうひゅう ヒューヒュー<百日咳の時の擬音語>  
はあはあ ハーハー<走って息苦しい様子を言う擬音語>  
○ハーハー イーヨル。アレ ミー ヤ。

IV 肩体の感覚

4-1 肩

こりこり コリコリ・ゴリゴリ<「コリガ タマッショル」のようにも言う>  
○コリコリニ コッコル。  
○カタガ ゴリゴリ イーヨル。

かちかち カチカチ<カチカチニはコリコリニと同様に使う>

4-2 胸

どきどき ドキドキ・ドクドク<恐ろしい時、極度の緊張の時の動悸の音>  
どきんどきん ドキンドキン・ドッキンドッキン<ドキドキより強い>  
とくんとくん 該当語なし。  
きゅっと キューット・ギューット<悲しみで胸がしめつけられる感じである>  
むかむか ムカムカ<悪い物を食べて吐き気をもよおす時の状態。怒りがこみあげてくる時にも言う>ムカツク<動詞>

4-3 腹

(空腹)

ぐうぐう グーグー  
○ハラノムシガ グーグー ユー デョー。  
きゅるきゅる 該当語なし。

ぺこぺこ ペコペコ <空腹の状態> 「ペコペコ スル」のように「スル」に続くことはない。

○ハラガ ペコペコニ ナッタ。 <ひどく空腹である>

(満腹)

だぶだぶ ダブダブ・ダボダボ・タブタブ・タブンタブン・タツブンタツブン

○ハラガ タブタブニ ナッタ。 <湯茶を飲みすぎた状態>

ちゃぼちゃぼ・ちゃぶちゃぶ 該当語なし

ばんばん バンバン <過度の満腹の状態。対照語はペコペコ>

(腹下し)

ごろごろ ゴロゴロ <下痢の時の腹鳴り>

ぐるぐる グルグル <豊浦郡ではキュルキュルと言う>

○ハラガ グルグル ユー。

びーびー ビービーシャーシャー <激しい下痢>

○ビービーシャーシャー クダル。

4-4 胃

しくしく シクシク <ひどくはないが持続する胃痛の時に言う>

じくじく ジクジク

○イガ ジクジク スルヨーナ。

きりきり キリキリ <さしこんでくる痛み。ちなみに胃痛の時はツメル。腹痛はセクと言う>・キューット

4-5 尻

むずむず 該当語なし

もぞもぞ モゾモゾ <この答は出にくかった。すっと出た答は、「キガ イジイジスル」「キガ イジャイジャ スル」であった。居たたまれない気持ちはこのように表現するのだと言う。なお、ほめられておちつかない気持ちは「シリコソバイー」と表現する。>

V 手足の感覚

(手)

ぶるぶる ブルブル

(足)

がくがく ガクガク

○ナガシ アルイテ ガクガク ヒザガ ワラウヨーナ。 <このような状態を「アシガ アガッタ」「アシガ オキチャーテ ハー ダメ デヨー」とも言う>

かちかち カチカチ <ヒルマ(ふくらはぎ)の張っている状態>

○カチカチニ ナッテ スジ(筋)ガ チー ヒキツケチョル。 <この状態をスクバルと言う>

- だぼだぼ  $\overline{\text{ダボダボ}}$  <カチカチの状態がゆるんでふくらはぎがやわらかくなった状態>
- じんじん  $\overline{\text{ジンジン}}$  <しびれがとけかけた時の感覚>・ $\overline{\text{ジーン}}$  <しびれている時>  
(その他)
- ぬるぬる  $\overline{\text{ヌルヌル}}$ ・ $\overline{\text{ヌルット}}$  <たとえばなまこなどを踏んだ時の感覚>
- べとべと  $\overline{\text{ベトベト}}$  <ねばりつく感じ>
- ずわずわ  $\overline{\text{ズワズワ}}$ ・ $\overline{\text{ズワリズワリ}}$ ・ $\overline{\text{ズワーリズワーリ}}$ ・ $\overline{\text{ズブリズブリ}}$ ・ $\overline{\text{ズツタン}}$   
 $\overline{\text{ズツタン}}$  <水を張った田に入っていく時の感覚。タイルの浮いた所を踏んだ感覚も「ズワズワ スル」と言う>
- びんやびんや  $\overline{\text{ビンヤビンヤ}}$  <岸から船に渡した板(アユミ)を踏んだ感じ>

## VI 関節(骨)の感覚

- ごきごき 該当語なし <寝違えた時は動かないから「クビガ  $\overline{\text{マーラン}}$ 」と言う>
- ぼっくり  $\overline{\text{ボックリ}}$  <骨折の時>  
○ $\overline{\text{ヒデー}}$   $\overline{\text{コトー}}$   $\overline{\text{シタラ}}$   $\overline{\text{ウデガ}}$   $\overline{\text{ボックリ}}$   $\overline{\text{イク}}$   $\overline{\text{デヨー}}$ .
- ぐきぐき  $\overline{\text{グジグジ}}$ ・ $\overline{\text{グチグチ}}$  <骨をたがえた時の音>
- こちっと  $\overline{\text{コチット}}$  <骨をたがえた時の感じ、音>
- ばきばき 該当語なし
- ほきほき  $\overline{\text{ホキホキ}}$  <骨折の時の音。また、力仕事の前に骨を鳴らす音>
- ほきっと  $\overline{\text{ホキット}}$ ・ $\overline{\text{ベキット}}$  <折れた瞬間の音・感覚>

## VII 体全体

- とろーっと  $\overline{\text{トロット}}$  <体全体の緊張のゆるんだ感覚>  
○ $\overline{\text{サキュー}}$   $\overline{\text{ノーダラ}}$  (酒を飲んだら)  $\overline{\text{トロット}}$  ネマス。

## おわりに

- 「 $\overline{\text{ベタベタスル}}$ 」「 $\overline{\text{ベタベタニナル}}$ 」「 $\overline{\text{ベタベタジャ}}$ 」のように、後続要素によってアクセントの異なることがある。
- たとえば「 $\overline{\text{ベタベタスル}}$ 」の「 $\overline{\text{ベタベタ}}$ 」を感覚表現の擬態語として取り上げることに迷わない。ただし、「汗で $\overline{\text{ビチャーット}}$   $\overline{\text{ヒツツイタ}}$ 」、「雨にぬれて $\overline{\text{ビッシャニナッタ}}$ 」などの「 $\overline{\text{ビチャーット}}$ 」、「 $\overline{\text{ビッシャ}}$ 」は状態表現の擬態語である。これらを感じ語として取り上げるか否かに迷った。今は取り上げていない。

(おかの のぶこ 梅光女学院大学)